



共通テストまで残り1ヶ月半です。3年生は、ここから受験本番まで、やるべきことを最後までやり続ける平常心が求められます。学習の積み重ねに対する成績の上昇は、階段状にアップしていくと言われています。学習の成果が、成績上昇として現れるまでにタイムラグがあります。つまり、今までのがんばりの成果が現れるのは、これからなのです。「やるべきことをやれば最後まで伸びる」と信じて、第一志望合格に向かって強気で進んでいってください。また、共通テストに向け、今のうちから生活リズムを整えましょう。特に、受験勉強中に迎える年末・年始で生活リズムを崩さないように気をつけること。また、受験本番までは、スマホや漫画を控えることは絶対です！集中力を高めていきましょう！

1・2年生は、ベネッセ模試が返却され、自分の学習状況を確認する時です。模試で間違えた問題は、自分の「伸びしろ」です。今から冬休みにかけてじっくり時間をかけて復習しましょう。1月には、またベネッセ模試がありますよ。

## ●大学入試トピックス 2026年度入試(現3年生が受験する入試)の志望動向

### ①共通テスト出願状況

(リセマム web ページの記事から抜粋して作成)

大学入試センターは10月3日、2026年度(令和8年度)大学入学共通テスト(以下、共テ)について受付最終日午後5時現在の出願状況を公表した。出願総数は49万1,272人。前年度同時期の出願総数より6,704人増加した。内訳は、高等学校等卒業見込者が41万6,965人、高等学校卒業者等が7万4,307人。前年度の受付最終日午後5時現在の出願状況と比べると、高等学校等卒業見込者が6,131人減、高等学校卒業者等が1万2,835人増。現役生が減った一方、既卒生は増加した。確定出願者数は12月上旬に発表される予定。

### ②新課程2年目の国公立大学入試動向

(旺文社教育情報センター web ページの記事から抜粋して作成)

2026年入試は、現役生の出願傾向は基本的に「初志貫徹」の見込みだが、共テの難化が予想されるため、やや慎重出願になりそう。そして、前年の入試結果(志願者増減や倍率アップダウン)の反動も強く作用する。25年に高まった公立大人気の反動が予想される。新課程共テ対策が進んだが、女子枠など推薦型・総合型が拡大しており、後期・中期の募集枠縮小で「最後まで粘る」戦略が難しくなり、条件がそろそろ第1志望を「推薦型・総合型→前期」で勝ち取る併願に変わりつつあるようだ。

【新增設】文理融合の情報科学系の新設が目立つ。特に、学内の既存の学部等が連携する「学環」を新設する佐賀大・熊本大が注目される。また、複数学科を1学科か、より少数の学科に統合する学部も、北見工業大・工、信州大・工、山口大・工、九州工業大・工・情報工、名古屋市立大・芸術工、兵庫県立大・工など、工学系で目立つ。【定員】埼玉大・教養・工、京都大・工、岡山大・農など、主に理系で定員増が相次ぐ。一方、山形大・教育、埼玉大・教育、熊本大・教育など教員養成系で定員減が目立つ。【女子枠】男子比率が高い理工系学部の推薦型・総合型への「女子枠」設置が続く。26年は岩手大・山形大・埼玉大・京都大・大阪大・広島大・愛媛大・公立小松大で新設、新潟大・金沢大・名古屋大・高知工科大で募集枠を拡大。【日程変更】旭川医科大・医(医)、山形大・教育・医(医)、群馬大・共同教育、広島大・法[昼・夜]・生物生産、佐賀大・医(医)、和歌山県立医科大・保健看護などで後期を募集停止。教員養成と医で後期縮小が目立つ。【募集人員】兵庫県立大・工で募集人員の比率を「後期→前期重視」に転換。一方、愛媛大・工は「前期大幅減、後期大幅増」、前橋工科大も「前期大幅減、中期大幅増」に変更。【2段階選抜】弘前大・医(医)、東京大・理科三類、東京科学大・理工学系の前期、前橋工科大の中期、奈良県立医科大・医(医)の後期で予告倍率を引き締める。また、岡山大・医(医)の前期で予告倍率に得点条件を追加。一方、お茶の水女子大が全学の前・後期で、香川大・医(臨床心理)も前期で廃止。長崎大・医(医)の前期、横浜市立大・理の後期などで予告倍率を緩和する。【学費等の増減】高知工科大で後期の受験料を「1万5千円→5千円」に減額。一方で、埼玉大・名古屋工業大・山口大が学費を増額(年額53万5,800円→64万2,960円。ただし夜間主コース・課程は各半額)する。

## ●国公立大学一般選抜の仕組み(1・2年生)

(河合塾大学入試情報サイト「Kei-Net」の記事を基に作成)

国公立大学の一般選抜は、一次試験的役割を果たす「共通テスト(以下、共テ)」の得点と、大学別に実施される「二次試験(個別学力検査)」の得点の合計で合否を判定するケースが一般的です。受験者は、共テの自己採点を行った後、志望する大学に願書を提出します。出願期間は、共テの約1週間後からスタートし、約10日間となっています。思うような得点でない場合は、当初考えていた出願校を変更することもあります。出願時に慌てないよう事前に複数の候補を挙げておくことが必要です。二次試験は「前期日程」「後期日程」の2つの日程に募集人員を振り分けて実施され、それぞれ1校ずつ出願できます。また、一部の公立大学で「中期日程」を設定する大学もあり、これらをあわせると国公立大学は最大3校の受験が可能となります。ただし、前期日程で合格して入学の手続きを行うと、中期、後期日程の合格の権利を失います。また、前期日程と後期日程の募集人員の割合は8:2と前者が高くなっています。一部の難関大学や医学科では、共テの成績を用いて受験者を事前に選抜したうえで2次試験を行う「2段階選抜」を実施しています。



## ●先輩の合格体験記

今月は、卒業した先輩方の「共通テストに向けた対策」を掲載します。

暗記系のものは直前まで伸びるので、諦めずに最後まで頭に叩き込むことが大事です。リーディングは時間との勝負なので、設問に必要な英文だけを丁寧に読んで、必要な英文は流し読みしましょう！ 分からない英文は気にせず、量をこなしましょう。本番は寒いので防寒対策をしっかり！ 休憩中は友達と散歩するのもおススメです。門の前に先生たちがたくさんいらっしゃるので、いつも通り挨拶して、緊張をほぐしてもらっちゃいましょう！

学校での演習をメインに行っていました。二次の配点が重い人は、少ない時間で得点を上げないといけないので、学校で共テ対策を済ませると良いです。直前1週間は、苦手な国語やリスニングはどうせ伸びないと開き直り、政経の知識を詰め込んで数点をもぎとる作戦で行きました。結果的に良かったです。本番は宇部高生が多い教室でしたが、模試で慣れていたので平常心で受験できました。模試は予想以上に本番に似ているので、外部の共テ模試、大学別模試にできるだけ多く参加することを強く勧めます。

理科基礎、社会、国語、英語は青本(駿台の実践問題集)で演習をして、数学は難しいので、過去問をしました。問題自体には赤で書き込みしないで、2回同じものをやるといいと思います。国語・英語は時間との戦いで、理科基礎、社会は基礎が大事です。数学は上に書いた勉強で、公式や考える力をたくわえたら良いと思います。最初は共テの勉強をしても成績が上がらない気がしますが、共テ本番で「自己ベストを出す」つもりでやったら、点が取れるはずです。共テの勉強は45日前くらいからがベターかもしれません。

11月くらいから問題集や過去問で演習しました。本番は、自分がいつも使っている参考書を持っていつたり、間違えたところをメモ用紙に書いて持っていくと、すき間時間に確認できて安心です。

## ●共通テストまであと1ヶ月半～準備することは？

- 受験票の準備: 受験票は、共通テスト出願サイトのマイページから各自で取得・印刷し、試験当日に持参する。スマートフォン等での画面表示では試験場に入場できないので、必ず紙に印刷された受験票を試験当日に持参する。
- 取得期間: 令和7年12月10日(水)10:00～
- 受験票取得の流れ: ①共通テスト出願サイトのマイページにログインし、トップページの「受験票」を選択。②表示された PDF ファイルをページの拡大・縮小はせずに、A4 サイズの白色の用紙に印刷する。カラー・白黒は問わないが、余白や裏面に何らかの記載がある受験票は使用不可。
- 腕時計の準備: 試験会場には時計がないと思っておくこと。仮にあったとしても、自分の席から見えないかもしれません。自分の時計を持っておく必要があります。スマホは机上に出すことができません。通信機能のある腕時計は絶対にいけません。カンニングとみなされ、受験資格を失います。力チカチと音の出るものは迷惑になるのでやめましょう。時刻を見るだけのシンプルな機能の腕時計を用意してください。
- 受験会場の下見: 受験票に、受験会場が記載されています(例年、ほとんどの生徒は山口大学工学部)。冬休みの間に一度、当日使う交通手段で会場に行ってみて、どのくらい時間がかかるか計っておきましょう。車で送ってもらう場合は、渋滞や事故の危険性も考慮し、充分な余裕をもって到着できるように考えておきましょう。雪が降ることも考えられます(山口大学工学部は坂の途中！)。雪が降ったらどうするか、ご家族で相談しておいてください。
- 生活リズムを整える: 冬休みに夜型生活にならないよう、「受験の日に起きる時間」に起きる生活を心がけてください。受験会場の下見をして、当日起きる時間を決め、その日にスッキリ起きられるように毎日同じ時間に起きましょう。

## ●「高大連携行事」活動報告

11月13日(木)にグローバルコース1年生が、姉妹校の山口学芸大学、山口芸術短期大学に訪問し、高大連携行事を行いました。この行事は、これまでの探究活動をふまえて、実際に大学に訪問し、概要説明・施設見学・模擬講義・大学生との交流会などの活動をすることで、大学生活を具体的にイメージすることを目的としています。生徒は大学生(慶進卒業生)との交流会に積極的に参加しながら、自らの進路を考える機会としていました。



大学生(慶進卒業生)との交流会の様子

## ●国公立大学一般選抜の願書取り寄せ

国公立大学の募集要項の発表は12月中旬までに行われ、願書の取り寄せができるようになります。募集要項は年内までに入手しておくと安心です。受験大学が、共通テスト結果次第で変わる可能性がありますので、無駄になるのを覚悟の上で、受験する可能性のある全ての大学の願書を取り寄せておくことをオススメします。

## ●私立大学の出願開始

私立大学の一般選抜の出願時期は12月下旬から1月下旬の間が多いです。年が明けると共通テストの受験など何かとバタバタするため、早く受験校を決めて、出願期間が始またらすぐに出願を済ませることをおススメします。出願の際、高校が発行する調査書が必要になります。「一般選抜連絡票」を期限内に担任に提出し、冬休み中に、調査書を受け取るようにしましょう。(調査書作成には時間がかかります。注意してください。)また、何校か受験する場合、出願締め切り、試験、合格発表、入学金納付締め切りなどのスケジュール管理が重要になります。

## 12月の進学スケジュール

- 5日(金) 小論文模試(I II G)
- 6日(土) 進学ガイダンス(I G)
- 8日(月) 大学訪問(I A)
- 10日(水) 共通テスト受験票取得開始(III)
- 12日(金) アドバンスコーザ(I II A)
- 19日(金) 共通テスト説明会(III)
- 19日(金)~22日(月) パック模試(III AG)
- 20日(土) 進路講演会(II ASG)
- 20日(土) テーマ発表会(I S)
- 22日(月)~25日(木) 保護者会
- 23日(火) 終業式、成績配付